

第 44 回 基本計画部会 議事概要

- 1 日 時 平成 25 年 9 月 27 日 (金) 13:10~14:32
- 2 場 所 中央合同庁舎 4 号館 12 階 共用 1208 特別会議室
- 3 出席者

【委員】

樋口部会長、深尾部会長代理、北村委員、西郷委員、白波瀬委員、竹原委員、椿委員、津谷委員、中村委員、廣松委員

【統計委員会運営規則第 3 条による出席者】

《国又は地方公共団体の統計主管部課の長等》

内閣府経済社会総合研究所総括政策研究官、総務省統計局統計調査部長、総務省政策統括官付統計審査官、財務省大臣官房総合政策課調査統計官、文部科学省政策課調査統計企画室調査調整係長、厚生労働省大臣官房統計情報部長、農林水産省大臣官房統計部長、経済産業省大臣官房調査統計審議官、国土交通省大臣官房審議官、日本銀行調査統計局参事役、東京都総務局統計部調整課長

【事務局等】

村上内閣府大臣官房統計委員会担当室長、清水内閣府大臣官房統計委員会担当室参事官、平山総務省政策統括官(統計基準担当)、横山総務省政策統括官付統計企画管理官、澤村総務省政策統括官付企画官

4 議 事

- (1) 「平成 24 年度統計法施行状況に関する審議結果」案について
- (2) その他

5 議事概要

- (1) 「平成 24 年度統計法施行状況に関する審議結果」案について

事務局から、前回部会における審議を踏まえた修正点について説明がなされた後、部会長から各WG座長に対し、「検討する」の表現見直しの検討結果を中心に各WG担当部分の主な修正内容等について説明要請があり、各WG座長から報告がなされ、審議が行われた。審議の結果、『補定 (imputation)』に関する表現の修正、『経済センサス - 活動調査の結果を踏まえた検証の必要性』に関する追記を保留したことを除き、審議の中で具体的に指摘された修正を加えることとなった。委員の主な意見等は次のとおり。

<各WG座長からの追加的な指摘>

- ・ 第 1 WG 担当部分では更に、p11 のグローバル化の中程のところの「国際経済の取引」は不自然な表現なので、「国際経済取引」又は「国際的な経済取引」に修正した方が良い。一番簡単な修正は前者。
- ・ 第 2 WG 担当部分では更に、p15 の (2) ①の「可能なものから提供する統計デ

一々の充実を図る」は違和感があるので、「提供する」の後に「ことにより」を追記したい。ここは、出て来る順番に従ってこのような対応をしていただきたいという意図がある。また⑤の「～試験調査の実施とその結果を踏まえて」は、まだ試験調査を実施していないので、「～試験調査を実施し、その結果を踏まえて～」とした方が、まず試験調査の実施に向けて全力を挙げ、その結果を速やかに踏まえ検討してもらいたいという点がはっきりする。

- ・ 第3WG担当部分では更に、p23の(3)③の「総合的な観点で」は「～観点から」の方が良い。また、他のWG担当部分だが、p15(2)①の「サンプルサイズからの結果精度や報告者負担の点を考慮した上で、各歳別表章の実査～」は、サンプルサイズと結果精度は密接に関係するが少し違うものであり、結果精度は必ずしもサンプルサイズだけで決まるものではないので、「サンプルサイズ、結果精度及び報告者負担～」とした方が良い。p18(1)の「重要なインフラと位置付けられるにとどまらず～重要な取組となっている」は、ややくどい表現であり、「重要なインフラであるにとどまらず～重要な取組である」と言い切った方が良い。また、④の「～より適切な経済活動への分類」については、適切な分類にすることが重要であるため、「経済活動をより適切に示す分類」の方が良い。
 - ・ 「結果」というと「調査をした結果」、「分析をした結果」という感じがするので、「結果精度」の前に言葉がないと分かりにくいと思う。意味が少し広がるかもしれないが「統計精度」としてはどうか。
 - ・ 今の話を聞く限りは、「推計精度」あるいは「達成精度」にしてはどうか。
 - ・ あまり細かく書き過ぎると他の文章とレベル感が異なってくるため、「等」を入れて「サンプルサイズ、推計精度及び報告者負担等を考慮した上で」としたい。
 - ・ p15(2)⑤の「～試験調査の実施とその結果を踏まえて」は、「～試験調査を実施し、その結果を踏まえて～」にした方が良いのではないか。厚生労働省はそれで良いか。
- 異論ない。
- ・ p19(2)ア②に「更なる活用の余地等を検討」とあるが、実際にはまだ活用されていないため、「更なる活用の余地等」ではなく「活用」を検討にした方が的確ではないか。財務省は良いか。
- 異論ない。

<他の委員から指摘>

- ・ p8のウ①で「～精度の維持・向上」とあるが、p7のアでは「～精度の確保・向上」とある。使い分けに意味がないならば、「確保」の方が積極的な意味があると思うので「確保・向上」に統一してはどうか。
- 異論ない。
- ・ 全体に渡ることだが、丸数字の前の「講ずべき」という表現について、「施策を講ずべき」などとは使うが「取組を講ずべき」は、「取り組むべきである」とした方が

よりの確ではないか。

→ その方向で全面的に修正したい。

- ・ p24 (5) の「不完全データの補定」は「定」で良いのか。「訂」ではないのか。業界用語の定訳なのかもしれないが広辞苑などの辞書に載っていない。
 - ・ 不完全データへの対応には imputation 以外にもあるので、「不完全データへの対応（補定など）」として幅を広くしておいた方が良いのではないか。また総務省統計局では「補定」という用語を使っているが訳語はほかにも「補完」、「代入」、「決めつけ」などがある。「補定」をスタンダードにするならばそれでも良いのではないか。
 - ・ imputation とは、年齢や配偶関係が不詳 (unknown) である部分を補正していくという文脈で使われると理解している。但し、不完全データへの対応は、幅広いものなので imputation だけに収束しない方が良い。「不完全データの推計」あるいは「対応」はどうか。あるいは、補正、推計をしてもらいたいという意味を込めたいならば、補完、補外などを記載した方が良いのではないか。
 - ・ 該当の箇所は、後ろに「マッチング技法の開発など」と「など」があるので、補定 (imputation) に限られない表現にはなっているのではないか。
 - ・ 少なくとも辞書に出ていないならば「補定」は適当でないのではないか。他方、平仮名は違和感があるというのが皆さんの印象でもあるようなので「補訂」ではないかと思うがどうか。
 - ・ imputation は「訂正」とも少し意味が違って、「追加する」、「補足する」というニュアンスが含まれているのではないか。
 - ・ imputation に縛られない方が良いのではないか。
 - ・ imputation も大事だが interpolation、extrapolation など色々ある。「補定」ではなく「推定」としたらどうか。
 - ・ この点については文章も含めて、後程、皆さんの意見をメール等で事務局に送っていただき調整することにしたい。
-
- ・ p28 の統計委員会における取組の中に、経済統計体系の全般的な検討を入れることについては、法 55 条に基づいた対応としては適当でないが、p9 の中段に「経済センサス - 活動調査の検証を踏まえ、新たな枠組み及び具体的な課題を検討するため関係府省が一体となった取組を推進していくことが必要である」と既に盛り込んでいることから、これと統計委員会の活動をからめる、又は、次回の経済センサス - 活動調査の諮問の時に審議するということがあった。しかし、関係府省に任せるだけではなく、できるだけ早い時期に統計委員会で検討し、検討結果をその後の委員会の活動にも反映していくことが必要ではないか。
 - ・ 自分も賛成だが、これは平成 24 年度統計法施行状況に関する審議であって次期基本計画そのものを審議している訳ではない。今後、次期基本計画を作成する中で、取組について真剣に検討すべきである。

- ・ 次の基本計画の審議をする時までには、経済センサス - 活動調査の結果について、全般的に勉強会等で議論しておくことが必要ではないか。この点は、審議結果に記載しなくても議事録に残すことで良い。
- ・ 次の基本計画を審議するのは次期の委員になり、議事録まで遡って読む者は少ないのではないか。審議結果に次期基本計画を検討する時には是非考慮すべきと明記した方が良いと思う。
- ・ p3の辺りに「なお、今回の審議では経済センサス - 活動調査の結果を踏まえた経済統計体系の全般的な検討については行う時間がなかったため、次期基本計画の答申までに検討を行う」などの文言を入れるのも一つの考え方と思う。
- ・ 経済センサス - 活動調査の結果検証ができなかったのは結果が公表されてなかったことが一番大きい制約だった。今後、商業、サービス業と、公表されていくので、その点も許容できる表現にした方が良いのではないか。
- ・ 修正案の表現はメール等で確認してもらおうこととしたい。

(2) その他

審議結果のとりまとめについて、樋口部会長より、各委員の意見も伺いたいので、後日、各委員にメール等で修正案に対する意見照会を行い、本日の審議で出された意見と併せて、修正案に反映したいとの提案があり、了承された。

以上

<文責 内閣府大臣官房統計委員会担当室 速報のため事後修正の可能性あり>